

4. 学校ボランティア受入校調査結果

回答数 47人(調査協力学校数 15校)

(1) 学生ボランティア受け入れに関する課題(メリット・デメリット) について、該当するものをそれぞれ選んで□に□をご記入ください。(複数回答)

メリット

学校現場の貴重な人材となっている。	23人	48.9%
学校に活気が出てきた。	8人	17.0%
中堅教員(ミドルリーダー)の人材育成にも役立っている。	3人	6.0%
子どもたちとよく遊んでくれる。	32人	68.1%
授業中、個別に関わってもらえる。	35人	74.5%
活動時の安全が図られる。	28人	59.6%
人手の足りないとき支援してもらえる。	44人	93.6%
掲示や〇つけ等支援してもらえる。	13人	27.7%
その他()	1人	2.0%

※その他の内容

- ・理科の実験器具の準備、片付けの手伝いをしてもらえる。

デメリット

教師が負担を感じている。	1人	2.1%
学校の組織的活動に支障が出る。	0人	0%
学生を指導するのが大変である。	3人	6.4%
子どもたちの規律が乱れる。	6人	12.8%
課題のある児童への配慮ができない。	6人	12.8%
その他()	4人	8.5%

※その他の内容

- ・何をやるか明確にしないと単なるボランティアになるので、指示や指導、評価をしてあげたいが時間が取れない。
- ・打ち合わせ時間がとれない。
- ・児童に手をかけすぎて、自己課題解決能力が高まらないことがある。
- ・子どもたちに毅然とした態度で接する学生は、規律の乱れを生まない。

(2) 学生のボランティア活動は、教員養成に有効な活動となっているか？ 口のどちらかを選択し、口のように記入し、その理由をお書きください。

なっている	47人	100%
なっていない	0人	0

理由

- ・教師になっていきなり現場に出るより、学生時代に現場を知り、学校や子どもと関わるよい経験になる。15
- ・教師の指導場面を直接見ることができる。6
- ・子どものかかわり方が学べる。3
- ・体験が自身のスキルアップにつながる。2
- ・学校現場を教師側から見るよい機会。2
- ・子どもとの信頼の築き方を学べる。
- ・教員の生の姿を見ることが学びになる。3
- ・現実を見ることで進路選択ができる。
- ・経験を積むことで、自身の適性をつかむことができる。3
- ・教員になる意識が高まる。2
- ・コミュニケーション能力が高められる。2
- ・大学での学びの実践の場となる。
- ・人材育成の必要性への意識改革となる。
- ・教員の指導力向上につながる。3

協力をいただいた学校

川越市：寺尾小学校、今成小学校、泉小学校

所沢市：並木小学校

富士見・・鶴瀬小学校、水谷小学校、関沢小学校、みずほ台小学校、つるせ台小学校

三芳町：三芳小学校

葛飾区立柴又小学校、大網白里町立白里小学校、さいたま市立影沼小学校

草加市立八幡北小学校、県立春日部特別支援学校

(3) 若手教員が増加する中、教師を目指す学生に学校ボランティア活動を通してどのような力を育成したらよいか？該当するものをそれぞれ選んで□に□をご記入ください。(複数回答)

豊かな人間性	20人	42.6%
子どもや教職員とのコミュニケーション能力	39人	83.0%
教育に対する情熱と使命感	23人	48.9%
子どもたちへの愛情	23人	48.9%
子ども理解	24人	51.1%
幅広い教養と専門的な知識・技能	11人	23.4%
実践的指導力	33人	70.2%
授業の仕方	11人	23.4%
授業の工夫	7人	14.9%
個に応じた指導の在り方	18人	38.3%
学級経営の在り方	12人	25.5%
生徒指導(場面指導)の在り方	18人	38.3%
子どもたちとの関わり方	29人	61.7%
人としての教師の在り方	19人	40.4%
その他()	1人	2.1%

※その他の内容 ・行事等の準備・運営

(4) 学校ボランティアの学生にやってほしい活動はどのようなことですか？該当するものをそれぞれ選んで□に□をご記入ください。(複数回答)

子どもたちと一緒に遊ぶ	42人	89.4%
子どもたちへの積極的な関わり・声掛け	41人	87.2%
あいさつ等しつけ	13人	27.7%
学習時の個別支援	35人	74.5%
体験活動・実習時の補助(安全確保を含む)	38人	80.9%
体育の模範演技	11人	23.4%
教室の環境整備	11人	23.4%
授業以外の教員の事務の補助(○つけ・資料作成等)	9人	19.1%
行事等の運営サポート	21人	44.7%
クラブ活動の補助	16人	34.0%
その他()	0人	0%

(5) 学校ボランティアを受け入れるにあたっての大学への要望等ありましたらご記入ください。

- ・学校現場で体験することは貴重な経験になる。2
- ・学生の人間力育成の向上。
- ・学校ボランティアは、学生にとっても学校にとっても有効な活動。
- ・学校と大学の連携が必要(定期的な連絡等)。2
- ・多くの学生が積極的に参加できるとよい。2
- ・大勢の学生に来てほしい。
- ・学校の貴重な戦力となっている。2
- ・ボランティアを単位化したら。2
- ・単位も大切だが、本当に意欲のある学生が学校には必要。
- ・ボランティア活動の振り返りを大学で実施することが大切。
- ・学年ごとにボランティア活動日が異なるとよい。
- ・定期的な活動となるとよい。
- ・活動に保険をかけていただいていることはありがたい。
- ・学生がボランティアで何を学びたいのか明確だとよい。
- ・学生たちに情熱と思いやりを育むことが大切。
- ・強い意識を持った学生に来てほしい。3
- ・教員になるという自覚をもった礼儀、言葉遣い、態度が大切。3
- ・社会人としてのスキルが高い学生に育てられている。2

(6) 学校ボランティア活動実施状況調査(学校)考察

- ・学校は、教員を目指す学生の学校ボランティアを「人手の足りないとき支援してもらえる」「授業中、個別に関わってもらえる」「子どもたちとよく遊んでもらえる」「活動時の安全が図られる」等、好意的にとらえている。
- ・学生のボランティア活動は、教員養成に有効な活動になっているとすべての回答者が答えている。また、このことから現在の新採用教員が抱える課題を解決するためには、学校ボランティア活動等を通して「子ども理解」をはじめ「子どもや教職員とのコミュニケーション能力」を身に付けることが重要であると考えていることがわかる。
- ・学校ボランティアの学生にやってほしい活動として「子どもたちと一緒に遊ぶ」「子どもたちへの積極的な関わり・声掛け」「体験活動時・実習時の補助」「学習時の個別支援」等が挙げられているが、一般的にボランティアの場合、受け入れ側の意思に基づく活動となりボランティアを実施する学生の思いや願い、目的と一致するとは限らない。言い換えると、体験で終わってしまい学生の資質によっては体

験学習になっていかない場合もあるようだ。

- ・ 学生ボランティアの学生にやってほしいことや大学への要望を見ると、学校によっては、学校の課題を解決するためにはボランティアにやってくる学生の育成を視野に入れたものもあり、Win-Win の関係づくりをしているところもある。

5. 学校ボランティア活動後の振り返り指導

Ericsson ら(1993)は、活動の量だけではなく、活動の質にも言及しており、むしろこちらのほうが 大事であると述べている。レベルを上げる活動は、単なる活動ではなく、「熟考された 鍛練 (deliberate practice)」である。すなわち、メタ認知として、問題を抽象化して知識を蓄えたり、問題解決のプロセスや知識を意識化したりすることが重要であると考えられる。別惣 (2001) は、「大学で学んだ教職に必要な理論的知識や実践イメージとしての実践知をメタ認知的スキルによって相互作用させ、特定の授業場面の文脈に適合する新たな実践を創り出す (p.164)」その過程を反省することが重要であると指摘している。

本研究では、上述のことを基にして、図 5.1 のような学校ボランティア活動後の振り返りシートを考案した。

学校ボランティア活動振り返り ① ②	
	場面1 授業
いろいろな場面で具体的にどんなことをしますか?(発見したこと・あなたなら)	
<input type="checkbox"/>	授業の目標
<input type="checkbox"/>	教材・教具の工夫
<input type="checkbox"/>	指導過程(学習の流れ)
<input type="checkbox"/>	児童の主体的活動(ICTの活用含む)と机間指導
<input type="checkbox"/>	発問の仕方
<input type="checkbox"/>	板書の仕方
<input type="checkbox"/>	評価と支援
<input type="checkbox"/>	学習規律
<input type="checkbox"/>	その他

図 5.1 学校ボランティア振り返りシート

具体的に作成した振り返りシートは、「授業①②」「問題が起きたとき③」「朝・休み時間・給食・清掃・放課後④」「学級づくり⑤」「学級通信⑥」である。これまでの学びは、点としての学びを学生自身が主体的に目的的な営みに高め、自己課題の解決を図っていたが、学生の点としての体験を線に繋げることを目指し、学生がそれぞれの体験を持ち寄り共有することで、内容を深めるとともに一般化をする。

学校ボランティア活動振り返り ① ②

場面1

授業

いろいろな場面で具体的にどんなことをしますか？(発見したこと・あなたなら)

授業の目標

教材・教具の工夫

4マスで1マスのノート 算数 ノートと半分に折る、 道徳 教材備品を利用

ストローで作った立方体

指導過程(学習の流れ)

前時の復習から入る。

平均を算ぶるとき 動くグラフ

NHKのビデオの活用

児童の主体的活動(ICTの活用含む)と机間指導

体験を SMILY と行う。

しもはしり つるで切っておく
学年で区切っておく

考える活動がどの教科にも入っている。

3年生理科
スノーシューマートに行く。

運動の話し合い。
それぞれの秋は隣で！ → じゅんぽうおひな

発問の仕方

序言をする時、子どもたちに考えさせる。個人を例に注目させる。

板書の仕方

子どものノートのマス目に合わせる 目的 目的 などの右並び

評価と支援

子どもは男の子に対して、片づけの練習をさせる。

習字の評価

下に紙を2つ折って評価。複数の作品に貼る。

作品を作った発表に発表

連絡帳などの書き換え、回数でも書き直しを行う。

学習規律

手を挙げていない子を指す。

礼の方法 先生のお礼

ゲームのルールを挙げる 同じ 反対

その他

机の上には何もおかない

話すときのトーンを固くしている。

GGノート

涙こらえる

1巻1) ジャパン バイタル

土曜日も来る

図 5.2 専門性に関する振り返りシートの使用場面

学校ボランティア活動後の振り返りシートを使った指導について、別惣（2001）は「実習生が授業の中で何を見ており、それをどのように解釈して、その解釈をどのように検証したり実行しようとしたのかを明らかにしようとする実習生の反省過程を支えたり、励ますという指導」が必要であるという反省的な技法の指導に関する指摘をしている。

本研究では、こうした考え方を基本に、専門性に関する振り返り指導と人間性に関する振り返り指導を考案した。

＜事例1＞ 専門性に関する振り返り指導として、学校ボランティア活動中のことを想起させ、その内容を付箋紙に書き込ませ、反省的な技法を使った指導を行った（図5.2）。

＜事例2＞ 人間性に関する振り返り指導として、学校ボランティア活動中のことを想起させ、その内容を付箋紙に書き込ませ、反省的な技法を使った指導を行った（図5.3、5.4）。

多くの学生から、学校ボランティアで得た学びをみんなで共有したり検証したりする場は有意義であるという感想を得た。

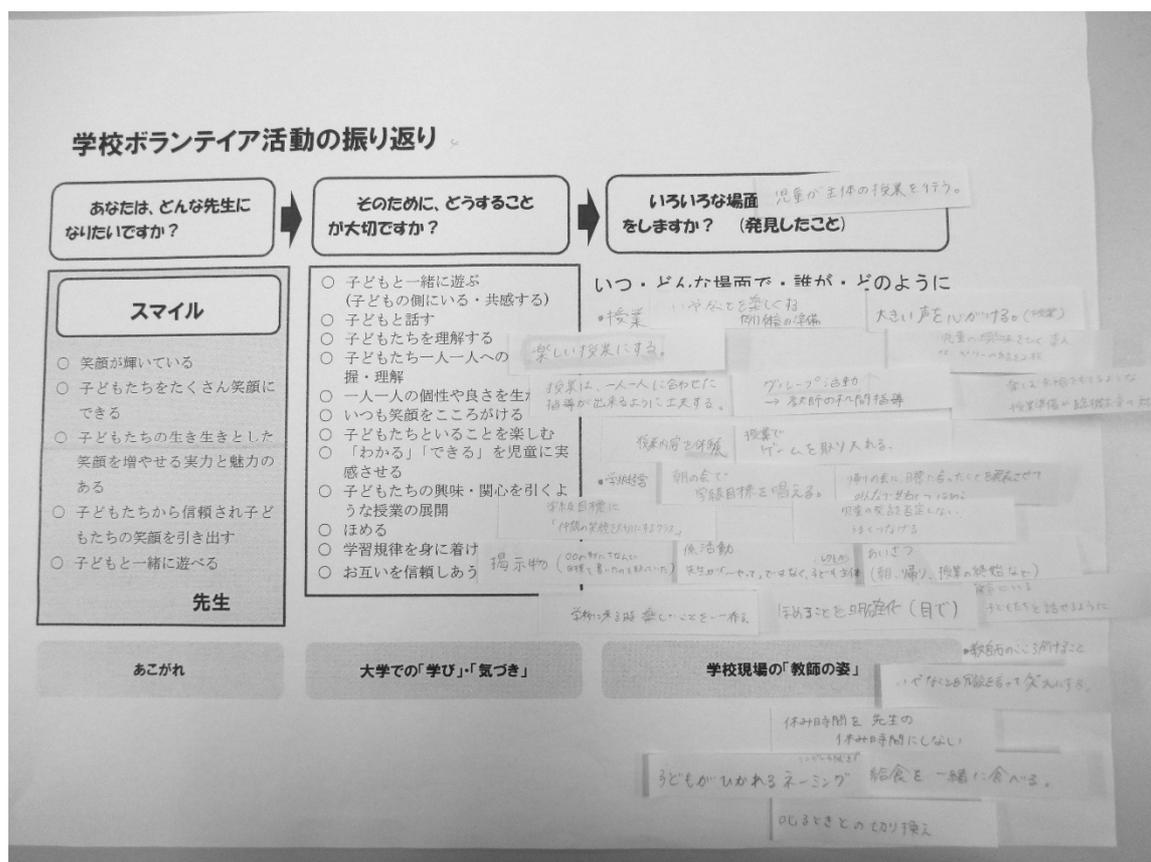


図 5.3 人間性に関する振り返りシートの使用場面例 1

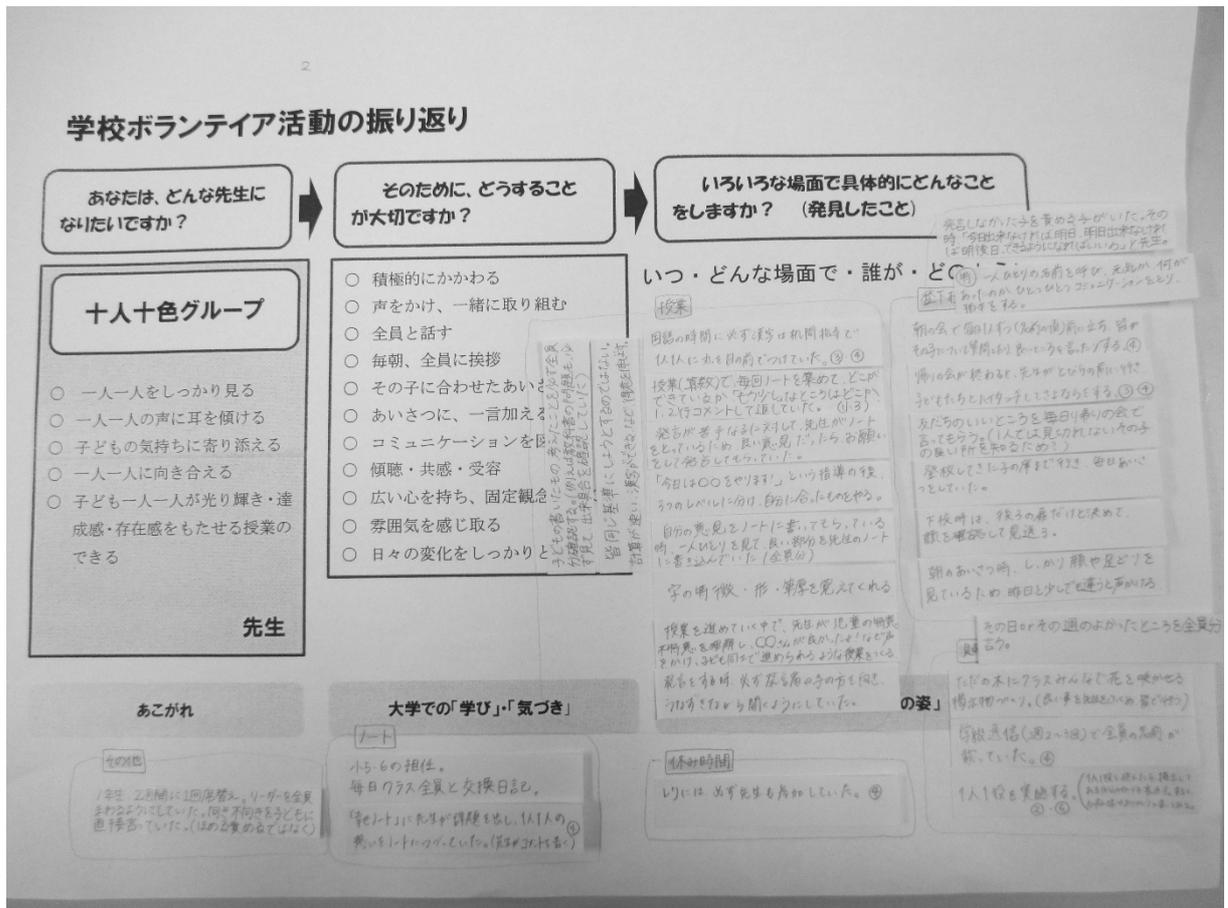


図 5.4 人間性に関する振り返りシートの使用場面例 2

引用文献

- Ericsson, K.A., Krampe, R.T., & Tesch-Romer, C. (1993) The role of deliberate practice in acquisition of expert performance. Psychological review, 100, 363-406
- 別惣淳二 (2001) 「第 11 章教育実習の反省と自己研修課題の発見」 156-173. 有吉英樹・長澤憲保編著 『教育実習の新たな展開』 ミネルヴァ書房.

第7章 4年次における「学校インターンシップ」カリキュラム

松原健司・内田弘・小林省三

1. 学校インターンシップにおいて育みたい実践的指導力

実践的指導力あるいは学校インターンシップで養成すべき内容については、様々な議論がある（佐藤他 2013 など）。本研究においても、4年間の学びで身に付けるべき内容を具体化するために、他大学での先行事例を参考にした。例えば岡山大学では、教育実践力を〈学習指導力〉、〈生徒指導力〉、〈コーディネート力〉、〈マネジメント力〉の4つのカテゴリー、16の項目で示している（表7-1）（有吉 2009, 仲谷・矢島ら 2015）。同時に、半年間週2日程度の学校インターンシップを試行する際は、その目標を「教育理論と教育実践を融合させながら教員になるために形成してきた実践的指導力の基礎（「教科指導力」「学級経営力」「生徒指導力」「保護者との連携力」等）をブラッシュアップするとともに、学校の組織人となって学級を担任しつつ、教科指導や生徒指導をすることができる力を総合的に身に付けること」としている（岡山大学教育学部 2007）。

表7-1. 岡山大学教育学部による教育実践力を構成する4つの力とその内容。

〈学習指導力〉

1. 子どものレディネスや学習状況を把握すること
2. 学習指導要領や、教育課程を踏まえて、学習指導案を作成すること
3. 様々な指導法を活用して、子どもの学習状況に応じた授業を行うこと
4. 自他の授業実践を分析し、授業の改善点を発見すること

〈生徒指導力〉

5. 子どもの発達的特徴を理解すること
6. 子どもの生活の実態を理解すること
7. 子どもと共感的にコミュニケーションすることや、子ども同士のコミュニケーションづくりを指導すること
8. 子ども理解に基づき、学校や学級で子どもが楽しく生活できるように指導すること
9. 実習生同士で協働して学習指導や学級経営等に取り組むこと

〈コーディネート力〉

10. 実習校の教職員とコミュニケーションをとり、連携すること
11. 学校に関わる協力者や専門機関と連携すること
12. 保護者や地域の人とコミュニケーションをとり、連携すること

〈マネジメント力〉

- 1 3. 自分で自分を律しつつ、意欲と課題意識を持って教育実践に取り組むこと
- 1 4. 教員の職務や氏名について理解し、専門職として求められる資質・能力等を高めていくこと
- 1 5. 学級、学年目標の実現に向けて、子どもの集団に働きかけること
- 1 6. 学校教育目標の達成に向けて、学校組織の活動内容や運営について理解すること

また、現在進められている教員養成の在り方の改革に伴い、教職専門性基準をより明確にし、これを実現するべきであるとして、例えば学習院大学人文学研究科教育学専攻では、以下のような教職の専門性基準を掲げている（表 7-2. 佐藤 2015）。大学院レベルでの基準であり、学部における教員養成では敷居が高い部分がある。しかし、教職の専門性の基準を明確にしてそれに相応しい実践的指導力を身につけさせる努力は、学部教育でも進めていかなければならない。その意味では、こうした専門性基準も意識して、取り込めるものは少しでも取り込んで学校インターンシップを実施していくべきと考える。

表 7-2. 学習院大学人文学研究科教育学専攻のカリキュラム編成の基礎となる教職専門性基準 (<http://www.daigakuin.ne.jp/schools/gakushuin-grad/curriculum.html> より)

-
1. 教職の公共的使命を深く認識し、子どもの学びの委託に応える教育科学と学習科学を体得している。
 2. 学問的教養と教職教養を基礎として、教科の内容と学び方について深い理解を形成している。
 3. 学校と教室の文化的・社会的文脈について認識し、創造性と協同性を啓発する方法で教育実践を遂行する。
 4. 教育実践について反省的で系統的な研究を行い、専門家共同体の一員として同僚性を発揮して学校経営に参加し、教育の質の向上に貢献する。
 5. 多文化共生や市民性の教育・持続可能性の教育など現代の課題を担い、地域の保護者や市民や他の専門家と協同して学校教育の創造的革新を推進する。
-

2. 学校インターンシップのルーブリックとその活用法

これらの先行事例や文科省の答申などを踏まえて、4年間の学びで学生に身につけさせたい能力は第4章のようにまとめられた。さらに、学校インターンシップに関するルーブリック案は表 7-3 に示す通りである。

この表中の「使い方」でも示したように、学校インターンシップの期間中、このルーブリックの全ての項目を使わなければいけないというわけではない。学校インターンシップは、当初通年を通して週1回程度現場に入ることを想定していた。しかし、本研究で検討を重ねた結果、また後述するように、通年で行う場合だけではなく、教員採用試験終了後の在学期間中に行う場合、あるいは卒論と関連づけて行う場合とそうではない場合も想定された。こうしたことから、学校インターンシップのルーブリックも、受入れ校や指導教員と十分に協議しつつ、必要と判断した項目のみを対象として活用することもあると考えている。

表7-3. 学校インターンシップのためのルーブリック試案

教職実践演習までに達成する自己評価内容				
淑徳大の教職で目指す資質・能力		学校インターンシップ・ルーブリックの使い方		
項目	指 標	5	3	1
学校教育についての理解	小学校教師を目指す者としての誇りと責任をもち、子どもや保護者、社会が寄せる信頼と期待を具体的に理解している	<p>○まず、「子どもについての理解」「他者との協力」「教科・教育課程に関する基礎知識」「教育実践」のカテゴリーの中で、重点的に取り組みたい課題を明確にする。</p> <p>○その後、各自選んだ取り組みに関連する部分ととも関連する項目のルーブリックに基づいて、指導担当の教員(現場・センター・専任それぞれ)の指導を受けることとする。</p>		
	挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方など、社会人として求められる基本的なマナーを身に付けている			
	小学校教師として授業を行うために必要な基礎的な知識や国の教育政策等に関する知識を身に付けている			
	学校における教育活動の様々な場面において、基本的な法令を基にして行動することの重要性を理解している			
子どもについての理解	子どもの理解に必要な心理・発達の基礎知識を習得している	<p>○小学校学習指導要領の内容に基づき、教科書の内容も踏まえた指導案を作成することができる。</p> <p>○各教科の特性に応じた指導技術を理解し、授業に取り入れている。</p>	<p>○子ども一人ひとりの特性や状況に応じた理解をもとに、子どもと関わることができる。</p>	<p>○子ども一人ひとりの特性や状況に応じて理解するための基礎知識と基礎的な技能を身に付けている。</p>
	学級集団づくりのために必要な基礎理論・知識を習得している			
	カウンセリングマインドや教育相談の手法をもとに、子ども一人ひとりの特性や状況に応じた理解ができる基礎的な技能を身につけている			
他者との協力	上司や同僚等の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題解決に取り組むことができる	<p>○職務分掌を理解して、上司や同僚等へ、適宜報告・連絡・相談ができる。</p> <p>○所属する学校の状況を踏まえて、保護者や地域と連携・協力することの必要性と重要性を説明できる。</p>	<p>○上司や同僚等へ、適宜報告・連絡・相談ができる。</p> <p>○保護者や地域と連携・協力することの必要性と重要性を説明できる。</p>	<p>○上司や同僚等へ、適宜報告・連絡・相談しようとしている。</p> <p>○保護者や地域と連携・協力することの必要性と重要性を理解している。</p>
	保護者や地域(学校応援団など)との連携・協力の重要性を理解している			
	子どもたちの発達段階を考慮して、積極的に声をかけたり、相談に乗ったりするなど、親しみをもった態度で接することができる			
	上司や同僚に、適切に報告・連絡・相談をしたり、保護者や地域住民からの相談に対処したりできる能力を身に付けている			
教科・教育課程に関する基礎知識・技能	小学校学習指導要領や教科書の内容を理解している	<p>○小学校学習指導要領の内容に基づき、教科書の内容も踏まえた指導案を作成することができる。</p> <p>○各教科の特性に応じた指導技術を理解し、授業に取り入れている。</p> <p>○子どもの学習状況を的確に説明しつつ、指導方法を作成できる。</p>	<p>○小学校学習指導要領の内容に基づき、指導案を作成することができる。</p> <p>○各教科の特性に応じた指導技術を理解している。</p> <p>○子どもの学習状況を踏まえた指導方法を作成しようと努力し、部分的に実践もできる。</p>	<p>○小学校学習指導要領の内容に基づき、指導案を作成することができる。</p> <p>○各教科の特性に応じた指導技術の必要性を理解し、学んでいる。</p> <p>○子どもの学習状況を踏まえた指導方法の必要性を理解している。</p>
	各教科の学習指導の方法に関する基礎理論・知識を習得している			
	道徳教育・特別活動等の指導方法や内容に関する基礎理論・知識を習得している			
	各教科等の特性に応じた指導技術等(発問の仕方、効果的な板書等)を理解し、身に付けようとしている			
	ICT(情報通信技術)の活用に係る基礎理論・知識を習得している			
教育実践	子どもの学習状況を的確に評価し、指導に生かす方法について理解している	<p>○教材研究を行い、子どもの反応も適切に予想した学習指導案を作成できる。</p> <p>○発問、話し方、板書の方法など、基本的指導技術を実行できる。</p> <p>○自らの授業を改善するための方法を身に付け、実践できる。</p> <p>○子どもの発達段階や実態を踏まえた学級経営案を作成できる。</p>	<p>○教材研究を行い、学習指導案を作成できる。</p> <p>○発問、話し方、板書の方法など、基本的指導技術を習得している。</p> <p>○自らの授業を改善するための方法を身に付けている。</p> <p>○子どもの発達段階や実態を踏まえた学級経営案を作成する方法を理解している。</p>	<p>○教材研究を行い、学習指導案を作成できる。</p> <p>○発問、話し方、板書の方法など、基本的指導技術を身に付けようとしている。</p> <p>○自らの授業を改善するための方法の必要性を理解している。</p> <p>○子どもの発達段階や実態を踏まえた学級経営案の必要性を理解している。</p>
	教材研究を生かした授業を構想し、子どもの反応を想定した学習指導案としてまとめることができる			
	発問、話し方など、授業を行う上での基本的な指導技術を身に付けている			
	授業力向上のためのPDCAサイクルを理解し、自己の授業実践を改善する方法を身に付けている			
課題探究	子どもの発達段階や実態、状況に応じた学級経営案を作成する方法を理解している	<p>○自らの授業を改善するための方法を身に付けている。</p>	<p>○自らの授業を改善するための方法を身に付けている。</p>	<p>○自らの授業を改善するための方法の必要性を理解している。</p>
	自らを省みて、自己の課題を認識し、その解決に向けて、学び続ける姿勢をもっている			
		自らの課題を明確にしてインターンシップに臨む前提なので、ここは達成できているとみなす。		

3. 学校インターンシップのプログラム

本学では、早期に教育実習を終えた学生に対して、通年の長期インターンシップを実施することを想定していた。しかし、前述のように期間だけを考えても様々な場合があり、さらに通年で実施するとしても1つの現場のみで実施するか、複数の現場を体験できるようにするか、頻度によっては半期だけでもよいのではないかなど、期間と頻度、内容に関して多くの意見が出された。

こうした意見を踏まえて、今年度中、教員・保育士養成支援センターの初等教育担当の教員が中心となり、教員採用試験合格者および臨時採用希望者に対して、試行的に実施したプログラムを実施して、次年度以降の内容の参考とした。その概要は以下の通りである。

- 1) インターンシップⅠ「授業づくり・学級経営」講座：12月下旬～1月中旬
内容：教科指導講座：教材研究・指導案作成・模擬授業・評価など
- 2) インターンシップⅡ「学校現場での体験学習」～めざそう109（しゅくとく）時間体験実習～
 - 1月～3月中旬まで 毎週火曜日と都合のつく日 できるだけ多くの時間を現場で過ごす。
 - インターンシップ受け入れ先学校は、連携市町村の中から、センターの初等教育担当教員が探す。
 - 専任教員とセンター初等教育担当教員が連携し、学生・学校・大学の三者が、実習始めと終わりに学生個人の課題・実習の様子について協議し、今後の教育実践に生かす。
 - 週1回、センター初等教育担当教員と学生は、進捗状況について協議する。
- 3) 正課としてのインターンシップ
現在の学部カリキュラムには、学校インターンシップに該当する授業は設置されていない。しかし、授業科目としてインターンシップを履修させることが学生の動機づけになるという考え方もある。そのため、既存の科目に学校インターンシップの内容を含めて実施する可能性も検討された。この場合、通年科目か半期科目とするかに伴い、履修登録時期と適正な実習時間を設定することになる。
教材研究や生徒指導等、学校現場を対象とした主題で卒業研究を行う場合は、研究と関連させた学校インターンシップが実施できる。この場合は、上記2)の手順を踏まえて現場に入り、研究テーマに関して指導担当教員の指導を受け、センターの担当教員およびゼミ担当教員と協議しつつ、研究とインターンシップを進めることになる。
- 4) 正課外活動としてのインターンシップ

授業あるいは卒業研究とは独立に学校インターンシップに取り組みたい、という希望がある場合も、教員・保育士養成支援センターでその申し出を確認した後、2) で示した手順で学校インターンシップに取り組むことになる。

4. 学校を活性化するインターンシップ 学校インターンシップは学生と大学だけにメリットがあるものではない。教職員の数が限られている学校においては、子どもの活動時の安全確保や授業中の児童への個別対応等に学生が関わることで、教育効果を高めることもできる。

一方、団塊世代が定年退職した後、教員の平均年齢、勤続年数が若年化する傾向が加速している。したがって、学校現場におけるミドル・リーダー、管理職候補の育成を急がねばなくなっている。このような状況で、若手教員がインターンシップの学生を指導する経験を積むことは、早期からのリーダー教育、研修と同様の効果をもたらすものと期待できる。



5. 淑徳教師養成塾実施ガイド／活動記録の活用法

ここでは、「淑徳教師養成塾実施ガイド」を掲載し、本学部における4年間を見通した教員養成カリキュラム全体の中で、学校インターンシップがどのように位置付けられているかを紹介する。同時に、上記ガイドの中のインターンシップ活動記録ガイドとループリックをもとに、学生はどのように学びを深めていくのかを紹介する。

「淑徳教師養成塾ガイド」は、当初、フィールドスタディーⅠを終了した学生が、2年次以降のボランティア活動に参加する際に、参加する学生が所持するべきものとして示されるとともに、受入れ校への説明のために、高橋敏教授が中心となって作成した。学年進行に伴い、ボランティア活動で活用されていたガイドを、4年次の学校インターンシップにも適用したものである。

インターンシップに参加する学生は「自身の目標」を記入していくことで、学びたいこと、身につけたいことを確認する。さらに、具体的に学校現場で何をするのか、できるのかを、学校の指導担当教員とも相談しながら決めていく。これを元にして、活動記録を書いていくとともに、それに対して現場で受けた指導についても記録していく。次に、この

記録を元に、2) で示したように、専任教員、教員・保育士養成支援センターの担当教員も交えて、現場での活動をふりかえり、目標に即した学びを深めていく。

6. 学校インターンシップの試行

脇本（2015）は、経験学習を行う際に、各プロセスを単に遂行するのではなく、将来的に自身はどうなりたいか、そのキャリアを念頭に置くこと、すなわち、自分をメタな視点で見る習慣が重要であると指摘している。こうした考え方を参考に、「活動中に考えたこと」「学んだことが将来どのように役立つのか」を振り返らせる「メタ認知」スキルの習得をめざした学校インターンシップ活動日誌を考案した。

本年度は、研究途上にあり、次年度に向け、来年度新採用教員、臨時的任用教員になる者の中から5名、連携市の協力のもとで学校インターンシップを試行している。学生には、学生の特性を伸長させる目標と教職実践演習までに達成する自己評価内容の中から重点的に取り組みたい課題を解決するための目標を設定させた。また、活動記録ノートを作成させ振り返りの場を作った。また、学校に依頼し、今後ミドルリーダーとして活躍が期待できるような人材を担当教員に充てていただき、インターンシップ実施日ごとに指導をいただくようにした。数回、支援センター教員が訪問し、インターンシップの状況や学校の意向、学生の体験を聴取した。

引用文献

- 有吉英樹（2009）実践的指導力の育成を目指す教員養成の在り方-岡山大学教育学部の場合-、岡山大学附属教育実践総合センター紀要 第9巻 pp73-82.
- 京都市教育委員会（2015）文部科学省「平成26年度総合的な教師力向上のための調査研究事業」京都教師塾の軌跡と実践的指導力、京都市教育委員会・京都市総合教育センター教員養成支援室.
- 仲谷・矢島ら（2015）3年次教育実習に関する学生の意識の検討、岡山大学教師教育開発センター紀要 第5号別冊 pp26-34.
- 岡山大学教育学部（2007）平成18年度 岡山大学教育学部・岡山県教育委員会 連携協力事業研究報告書
- 佐藤学（2015）専門家として教師を育てる 教師教育改革のグランドデザイン 岩波書店 第6章
- 佐藤仁・樋口裕介・吉田茂孝・岡花祈一郎（2013）実践的指導力をめぐる教員養成研究の新たな研究視角の模索-教育方法学、特別支援教育、保育者養成の議論を手がかりに- 一福岡大学研究論文集 B6 pp61-75.
- 脇本健弘（2015）教師をめぐる今日の状況『教師の学びを科学する』北王子書房, p.59

おわりに

本調査研究の目的は、4年間を見通した実践的な教員養成カリキュラムの開発という観点から、教育委員会と連携して、大学での学修（専門的知識・技術・幅広い教養等）を、学校現場で求められる実践的指導力（学級経営、教科指導、生徒指導、子ども理解等を著しい支障なく実践できる能力）の育成にまで高めていくためのカリキュラム開発とその試行をすることである。

理論と実践を架橋する長期間の学校インターンシップにおける教員養成カリキュラム開発と実施をめざして調査研究を行ってきた結果、下記の3つの成果を得ることができた。

- (1) 1・2年次における学校現場体験（2週間）の仕組みづくりでは、「小学校の現場を知る」、「教師の仕事を知る」、「子どもの実態を知る」等に関するルーブリックを作成し、実習校の教員や参加学生による評価・分析を行い、学校現場実習カリキュラムの改善を行った。
- (2) 2・3年次における学校ボランティア活動（週1日、1年間）では、学校ボランティア活動状況調査やボランティア校、教育委員会へのアンケート調査結果を基に、学校ボランティア活動の内容と方法に関するカリキュラム開発の検討を行った。また、問題解決の過程やその過程でどのような知識が利用できるかを意識化する「メタ認知」スキルの習得に向けた「体験」と「省察」の指導に関する指導方法を考案した。
- (3) 4年次における学校インターンシップでは、実習日誌を利用した個人カルテを開発し、大学で学習する教科指導や生徒指導の理論と学校現場での実践を架橋する指導方法—「範例的なもの」をケース・メソッドで教える方法の開発を行った。

今後の課題としては、次の2点が挙げられる。

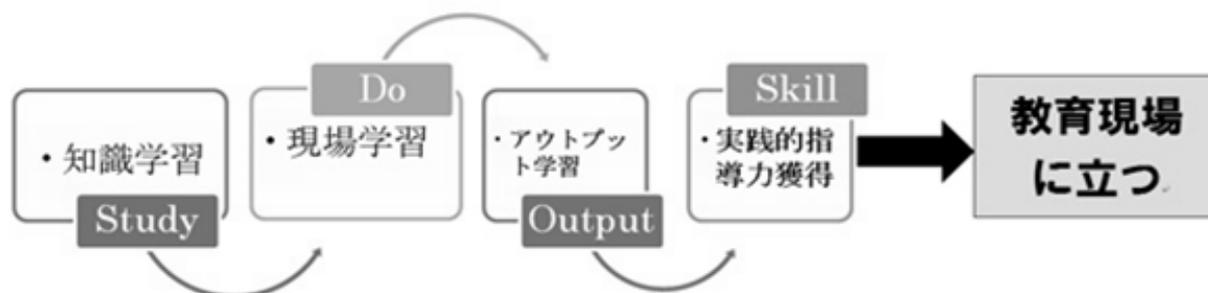
- ① 大学で学ぶ理論と現場での実践を架橋する指導の在り方については、日本教育大学協会が教員養成の「モデル・コア・カリキュラム」を提示し、本学部の教員養成カリキュラムも大筋においてそれを踏襲してきている。その基本的コンセプトは「体験」と「省察」を螺旋状に繰り返すことで「実践知」を獲得するというものだが、本学部の場合、豊富な体験科目に比べて少ない省察科目のカリキュラムを開発していく必要がある。
- ② 省察科目について、典型性と具体性を併せ持つ「範例的なもの」をケース・メソッドで教えていくという指導方法の原理を具体化していく必要がある。

今後、大学・学校・教育委員会の連携のもと実施したインターンシップの取り組み(学校現場における教員養成の在り方、学校のみドルリーダーの育成)の検証を実施していく必要がある。

最後に、1年間にわたる検討会議を終始リードし、報告書をまとめ上げた加藤尚裕教授（教育学部こども教育学科長 兼 教員・保育士養成支援センター長）のご尽力に対し、メンバー一同心からの謝意を表したい。

【資料】 全体イメージ

実践的指導力を獲得する実学教育



淑徳教師養成塾と授業カリキュラム

区分	ボランティア・研修・授業	1年次	2年次	3年次	4年次
淑徳教師養成塾	教育センター研修	主に8月中			
	教育センターボランティア	主に8月中			
	スクールボランティア	年間を通して（授業が無い日や時間）			
	学会・研究会への参加	年間を通して			
	川越市特別支援ボランティア	川越市にて			
	学校インターンシップ	研究校にて			
	各種要請ボランティア	学習支援・野外活動・他の随時ボランティア			
正規授業 カリキュラム	フィールドスタディーⅠ	小学校で2週間 教師の仕事学ぶ			
	フィールドスタディーⅡ		特別支援学校・学級で2週間		
	介護等体験実習			社会福祉施設5日・特別支援学校で2日、計7日間	
	早期教育実習			小学校で4週間	
	教育実習				小学校で4週間
	フィールドスタディーⅢ (学校インターンシップ)				研究校にて週1回 通年

2 淑徳教師養成塾の目的・内容

1 目的

学校等の教育活動ボランティアや学校・教育センターなどの研究発表会・研修会に参加することにより、実践的指導力の育成を図る。さらに研究推進校などでの学校インターンシップで、総合的な実践的指導力を獲得する。

2 学年ごとの活動と目的

学年	活動内容	目的	期日	場所	備考
1・2・3年次	○教育センター研修会への参加 ○教育センター研修会の駐車場係や受付のボランティア	夏季休業中に提携市の教育センター研修会を受講（ボランティア活動を含む）することにより、教職の厳しさ、研修の大切さに気付き、4年間の学びに真剣に取り組もうとする意識を育む。	○夏季休業中に各学生1日	○川越市立教育センター ○所沢市立教育センター	○教育センターと大学間で連絡調整を図り活動します。
	○スクールボランティア ○研修会、研究会への参加 ○研修会、研究会でのボランティア ○野外活動補助 ○夏季補習補助	提携市町立小学校などにおけるスクールボランティアや、教育研究会（教育センター研修会、校内研修会、研究発表会、教育学会、等）に参加（研修会のボランティア活動を含む）することにより、実践的指導力を身に付ける。	○年間を通して ○学生が参加・活動可能な曜日・日時	○各小学校 ○教育センター ○他	○学生からの申し出、学校からの要望によって教員・保育士養成支援センターが連絡調整を図る。
4年次	○研究推進校などでのインターンシップ	年間を通して学校研究に参加し、研究内容や研究方法等を学ぶことにより、学校現場で通用する総合的な実践的指導力を獲得する。	○年間を通して ○教員採用試験終了後 ○教育実習終了後	○研究推進校またはインターンシップ委嘱校にて	○学校と大学間で連絡調整を図り活動する。

（※研究会・研修会への参加については主催者からの要望がある場合のみ「②依頼書」の手続きを行います。）

3 スクールボランティア活動の主な内容

学校教育活動（教育課程及びそれに準ずる活動）の中で大学生の補助を必要とするものについて、先生方の指導の下でボランティア活動を行う。

- (1) 国語、算数などの教科指導への支援活動
- (2) 特別な配慮を要する児童生徒の学習・学校生活への支援活動
- (3) 放課後に行う児童生徒の学習相談・遊びへの支援活動
- (4) 部活動、校外教育活動への支援活動
- (5) その他、校長がボランティアとして認める活動への支援 など

※具体的な活動は各学校の校長先生と相談する。

3 スクールボランティア参加手順

学生がボランティアを希望する場合

学生が①「スクールボランティア申請カード」を教員・保育士養成支援センター事務室に提出（学校が定まっていない場合・出身小学校・フィールドスタディーⅠ等で関係した小学校を希望する場合等）

↓

教員・保育士養成支援センター事務室は学生がボランティアを希望する学校長に連絡する。学校を特定していない場合は事務室側が折衝する。
学生は①「スクールボランティア申請カード」を養成支援センター事務室に提出。

学校からボランティア学生の要請があった場合

↓

教員・保育士養成支援センター前に募集要項の張り出し、ポータルサイト等で学生に周知する。

↓

学生は①「スクールボランティア申請カード」を教員・保育士養成支援センター事務室に提出。

- ↓
- 教育・保育士養成支援センターが学校と直接折衝・学生との調整⇒ボランティア先学校決定。
 - 教員・保育士養成支援センターは申請カードのコピーを取って保管

- ↓
- 学生は、教員・保育士養成支援センターから①申請カード（原本）、②依頼書、③誓約書、④ボランティア承諾書を受け取り、必要事項を記入して学校訪問の準備をする。必要に応じて指導を受ける。

- ↓
- 学生はボランティア先学校に連絡を取って訪問し、①申請カード、②依頼書、③誓約書、④ボランティア承諾書を提出してボランティア活動の了解を得る
 - 了解を得たら署名と印の入った④ボランティア承諾書をいただく。

- ↓
- ④ボランティア承諾書を教員・保育士養成支援センターに提出。
 - 教員・保育士養成支援センターは「スクールボランティア受入校・活動学生一覧表」に入力。

- ↓
- ボランティアの開始。「活動記録ノート」に記録する。
 - ボランティア活動期間中に最低1回は、教員・保育士養成支援センター教員が訪問指導（挨拶）を行う。
 - 「活動記録ノート」は前期・後期ごとに担当教員のチェックと指導を受ける。

- ↓
- ボランティアを途中で終了する場合は教員・保育士養成支援センターに申し出て許可を得る。
 - 「淑徳教師養成塾スクールボランティア受入校・活動学生一覧表」に終了の記入。

4 期間限定ボランティア（夏季ボランティア等）参加手順

関係機関や学校から期間限定ボランティア学生の要請があった場合

2014年度例（学校研究発表会の手伝い・子ども大学ふじみ・子どもスポーツ大学・子ども大学みよし・朝霞市「彩夏ちゃんのサマースクール」・入間市補充学習支援・入間市のサマー・チャレンジ・キャンプ・富士見市青少年育成市民会議の夏休み宿題教室・他）



教員・保育士養成支援センター前に募集要項の張り出し、ポータルサイト等で学生に周知する。



学生は⑤「期間限定ボランティア申請カード」を教員・保育士養成支援センター事務室に提出する。
（過去に写真を添付した「スクールボランティア申請カード」を提出している学生は写真添付の必要無し。）



教員・保育士養成支援センターは、学生の割り振り調整を行い、関係機関や学校に連絡。



教員・保育士養成支援センターは、学生に参加の可否を連絡する。



教員・保育士養成支援センターは必要に応じてボランティアの心得等を指導する。



- 学生がボランティアに参加
- 教員・保育士養成支援センターは「スクールボランティア受入校・活動学生一覧表」に入力。



- ボランティアの開始。「活動記録ノート」に記録する。
- 教員・保育士養成支援センター教員は必要に応じて訪問指導（挨拶）を行う。
- 「活動記録ノート」は前期・後期ごとに担当教員のチェックと指導を受ける。



- 途中でボランティアを終了する場合は教員・保育士養成支援センターに申し出て許可を得る。
- ボランティアが予定通り終了したら、教員・保育士養成支援センターにその旨を報告する。
- 「淑徳教師養成塾スクールボランティア受入校・活動学生一覧表」に終了の記入。

5 研修会・研究会への参加手順

関係機関や学校から研修会・研究会への案内があった場合

例（学校での研究発表会や研修会、教育センター等での研究発表会や研修会、学会その他）



教員・保育士養成支援センター前に案内の張り出し、ポータルサイト等で学生に周知する。



学生は⑥「研修会・研究会参加希望カード」を教員・保育士養成支援センター事務室に提出する。



教員・保育士養成支援センターは主催者事務局に連絡する。



教員・保育士養成支援センターは、学生に参加の可否を連絡。



教員・保育士養成支援センターは必要に応じて参加の心得等を指導する。



学生が研修会・研究会に参加。



- 研修会・研究会に予定通り参加し終わったら、教員・保育士養成支援センターにその旨を報告する。
- 教員・保育士養成支援センターは、必要に応じて主催者に御礼の連絡をする。

6 ボランティア・研修会等への参加心得

【淑徳大学学生代表であることを自覚する】

I 心構えと準備

1 服務

- 服務はボランティア先教職員に準じるものとする。
- ボランティア保険には必ず加入する。
- ボランティア活動は原則無償である。
- 自己都合によりボランティア活動を辞退する場合は、なるべく早くボランティア先の責任者（校長等）に連絡し、了承を得ること。
- ボランティア活動中に不適切な言動があり、活動に適さないとボランティア先の責任者（校長等）から連絡があった場合は、大学としてボランティア活動の即刻中止を命じる。

2 参加に際して

- 仕事の場（研修の場）であることを忘れずに常に謙虚に学ぶ姿勢を心がける。
- 礼儀正しく、気持ちのよい挨拶で、素早い行動と細かな気遣い。
- 時間厳守の5分前行動と、報告・連絡・相談（ほうれんそう）を心がける。
- ボランティア・研修で知り得た秘密を他人に漏らしてはならない。

（地方公務員法 32 条～37 条を理解しておく）

3 服装や持ち物

（1）服装

- 「学ばせていただく姿」で派手な服装は慎む。
- 男性はスーツ（スーツに準じたクールビズで可）。女性は男性に準じた服装。
- 教師を目指す学生にふさわしい髪色、髪型等をこころがける。
- 服飾品（ネックレス・ピアス・指輪・マニキュア等）は慎む。
- 業務の内容によっては、着替えて体育着でも可。（指示を仰ぐ）

（2）持ち物

- 名札
- 筆記用具・ノート
- メモ帳：指示を受けた時すぐにメモが取れるように。

※特に研修会等に参加した場合は、大学に戻って内容の説明ができるくらいにメモを取る

4 ボランティア先の方々（指導主事や先生方等）との接し方

- 自分が学ばせていただく立場であることを忘れない。
- 活動で不明な点があれば、遠慮せず聞くように心がける。
- 教育センターの指導主事は、現場の先生方を指導する立場にあることを忘れない。

Ⅱ ボランティア活動や研修会への参加に際して

1 研修会への参加

- 「何かお手伝いすることはありますか」準備、後片付けで必ず聞く。
- どんな内容でも必ずメモを取る（学ぶ基本）。寝てしまう、私語などはもってのほか。
- 意見を求められた場合はハキハキと。「勉強不足で分かりません。」でも可。

2 ボランティア活動について

※研修会への参加もこれに準じる

(1) 勤務

- 礼儀正しく、気持ちのよい挨拶で、素早い行動と細かな気遣い。
- 出勤時刻に間に合うよう、余裕を持って出勤する。
- 自分が「仕事」に参加していることを自覚し、休んだりせぬよう体調管理をする。
- 「何かお手伝いすることはありますか」の姿勢と問いかけが基本。

(2) 退勤

- 担当の方（担当の先生）の指示に従う。
- 退勤時刻は、ボランティア先の勤務終了時刻であるが、特別な場合には指示に従う。
- 退勤時には「これで帰らせていただいてよろしいでしょうか」と聞き、挨拶してから退勤する。

(3) 事情があって休む場合

- 休む際にはボランティア先の責任者（校長等）に理由を報告する。
- 次に行った時には、お詫びの挨拶をする。

(4) 相談ごとがある時

- ボランティア先の方々（担当の先生方）に相談するのが基本。
- やむを得ない場合は教員・保育士養成センター（049-274-1554）へ。

Ⅲ その他

- いつでも報告できるよう、「活動記録ノート」を整理しておく。
- 「教師」としての信用を失墜する行為は、厳に慎む。体罰は、絶対に加えてはならない。
- 貴重品は、自分で責任を持って保管すること。
- 許可なしに家庭訪問をしたり、児童・生徒を自宅に訪問させたり、校外に連れ出したりしてはならない。
- 携帯電話はマナーモードに設定し、必要以外使用しない。
- 児童・生徒とのアドレス交換は厳禁。
- 埼玉県内の公立学校では敷地内全面禁煙。学校周辺での喫煙や「歩きタバコ」も慎むこと。
- ボランティア中の費用は、自己負担とする。

7 学校インターンシップの参加手順

研究テーマ一覧の告示

教員・保育士養成支援センター前に研究テーマを張り出し、ポータルサイトや3年生のゼミ等で学生に周知する。



学生は「**学校インターンシップ申請カード**」を教員・保育士養成支援センター事務室に提出する。
(過去に写真を添付した「**スクールボランティア申請カード**」を提出している学生は写真添付の必要無し。)



教員・保育士養成支援センターは、学生の割り振り調整を行い、関係機関や学校に連絡。



教員・保育士養成支援センターは、学生に参加の可否を連絡する。



教員・保育士養成支援センターは必要に応じて学校インターンシップの心得等を指導する。
(心得は学校ボランティアの内容に準ずる)



- 学生が学校インターンシップに参加／必要に応じてフィールドスタディーⅢの履修登録を行う。
- 教員・保育士養成支援センターは「学校インターンシップ受入校・活動学生一覧表」に入力。



- 学校インターンシップの開始。「活動記録ノート」に記録する。
- 教員・保育士養成支援センターの指導教員は必要に応じて訪問指導（挨拶）を行う。
- 「活動記録ノート」を踏まえて、定期的に指導教員のチェックと指導を受ける。



- 途中で学校インターンシップを終了する場合は教員・保育士養成支援センターに申し出て許可を得る。
- 学校インターンシップが予定通り終了したら、教員・保育士養成支援センターにその旨を報告する。
- 「淑徳教師養成塾 学校インターンシップ受入校・活動学生一覧表」に終了と記入する。

淑徳教師養成塾 学校インターンシップ

活動記録ノート

(平成〇〇年度版)

実践目標 彼のためにではなく、彼と共に

実習期間	平成 年 月 日() ~ 月 日()
実習校名	
電話番号	
所在地	
学校長	先生

淑 徳 大 学

教育学部 こども教育学科

〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1

Tel.049(274)1511(代表) Fax.049(274)1521

学籍番号	氏 名

※ファイルにして保存する。活動記録用紙はコピーして記入していくこと。

1 実践目標

彼の為に (for him フォアヒム)

ではなく、

彼と共に (together with him トギャザーウイズヒム)

救済は相救済互でなければならない。即ちフォアヒム（彼の為に）ではなく、トギャザーウイズヒム（彼と共に）でなければならない。

〔「社会事業とは何ぞや」（長谷川良信選集編集委員会編『長谷川良信選集』上巻所収）

長谷川良信：学祖[1890（明治23）年～1966（昭和41）年]

人間は一人で生きているのではなく、それをとりまくあらゆる人々や事物に支えられ、生かされている存在なのである。ひらたくいえば、社会の有形無形の一切のご恩にあずかって自己が存在していることになる。そして、その自己の存在が、自覚されたとき、社会の恩に対する感謝の心が生じ、「報恩」の行として、他者を愛し、他者と積極的にかかわる社会事業が成り立つ。「感恩奉仕」は長谷川の座右の銘であった。・・・・長谷川の場合、こうした仏教の報恩思想が、単なる理論的帰結としてではなく、・・・・青年期における社会的実践と宗教体験を通して血肉化され、自らの社会事業を根底的に支えていたのであった。だから、その社会事業は、優者が劣者に、強者が弱者に、しかも一方的に、というような差別的人間観の否定の上にたつものであって、あくまでも主客－主体と対象－の平等性が基調になっている。まさに、「フォアヒム（彼の為に）ではなく、トギャザーウイズヒム（彼と共に）でなければならない」のである。われわれは、当時の社会事業を支えた「社会連帯」思想の先駆けをここにみることができる。

〔長谷川匡俊編著『近代浄土宗の社会事業一人とその実践－』より〕

6 自身の目標

質問 あなたが学校インターンシップを通じて達成したい目標と実践したいことは何ですか。

目標（学校インターンシップを通して学びたいことや身につけたいこと）	
特性に関すること	自己課題に関すること

実践したいこと（目標を達成するために、具体的にやりたいこと）	学校担当者と話し合っ、実践できること



7 学校インターンシップ活動記録

月 日 曜日		天 候	出勤 時 分	退勤 時 分
活動時間	ボランティア活動の中で学びとったこと	活動中に考えたこと		
ボランティア活動の1日を振り返って（学んだことが将来どのように役立つのか）				
月 日 曜日		天 候	出勤 時 分	退勤 時 分
活動時間	ボランティア活動の中で学びとったこと	活動中に考えたこと		
ボランティア活動の1日を振り返って（学んだことが将来どのように役立つのか）				

書式①「学校インターンシップ申請カード」

淑徳教師養成塾 スクールボランティア 申請カード					
学校名		決まっている場合のみ記入			
ふりがな		学籍番号			
氏名					
連絡先	携帯:				
	その他:	(自宅電話等)			
	メール:				
現住所		4 cm × 3 cm 写 真			
出身地					
通学経路・手段					
ボランティアに対する抱負					
セールスポイント (趣味、特技、サークル・クラブ等)					
ボランティア保険	□大学でボランティア保険に加入済み(済みの場合は☑)				
	平成	年	月	日	記入

書式②「依頼書」

平成 年 月 日

立

学校長 様

淑徳大学教育学部
学部長 新井 保幸

淑徳教師養成塾（学校インターンシップ）活動学生受け入れ依頼書

下記学生が貴校において、学校インターンシップ活動を希望しております。
つきましては、教職員の皆様の指示に従い一生懸命活動して学ぶよう指導して
おりますので、受け入れをご承諾くださいますようお願い申し上げます。

記

○学 部 名 教育学部こども教育学科

○学籍番号

○性 別 男・女

○氏 名

書式③「誓約書」

淑徳教師養成塾 学校インターンシップ受入校

小学校長 様

淑徳教師養成塾 学校インターンシップ誓約書

私は、淑徳教師養成塾 学校インターンシップに臨むにあたり、以下の事項を厳守することを、誓約いたします。

- 1 学校インターンシップ活動期間中、学校長、及び学校インターンシップ指導担当者の指導・監督に従います。
- 2 学校インターンシップ活動の経費(交通費・食費等)は全て自己負担とし、学校インターンシップ学生としての役務に対する報酬等は請求しません。
- 3 学校インターンシップ活動中に知り得た児童の秘密や受入校の業務上の秘密は、学校インターンシップ中も学校インターンシップ終了後も漏らしません。
- 4 学校インターンシップ活動受入校の書類等を引用して実習の成果を公表しようとするときは、あらかじめ承認を得ます。
- 5 故意又は重大な過失により、受入校、並びに受入校の児童に被害を与えた場合は責任を負うこととします。

平成 年 月 日

氏名

印

書式④「承諾書」

淑徳大学教育学部
学部長 新井 保幸 殿

淑徳教師養成塾（学校インターンシップ）活動学生受け入れ承諾書

本校は、貴学部の下記学生を、所定の期間、学校インターンシップ生として受け入れることを承諾いたします。

記

教育学部 年

学籍番号

氏 名

平成 年 月 日

学校名

校長名

⑩

平成 27 年度

総合的な教師力向上のための調査研究事業

— 教育課題に対応するための教員養成カリキュラム開発 — 報告書

平成 28 年 3 月発行

編集・発行

淑徳大学 教員・保育士養成支援センター

〒354-8510

埼玉県入間郡三芳町藤久保 1150-1

(淑徳大学 埼玉キャンパス)

電話 049(274)1511 (代表)

印刷

株式会社 白鷗社

